

敬和学園大学英語文化コミュニケーション学科 1年生の英語能力・英語学習に関する実態調査(1)

川 又 正 之・上 野 恵美子

はじめに

本学英語文化コミュニケーション学科の学生たちは、いったいどのような目的や意識を持って入学してきたのであろうか。また、中学・高校時代にはどのように英語を勉強してきたのであろうか。さらに、入学後の英語学習にはどのように取り組んでいるのであろうか。本稿では、2017年度入学の敬和学園大学英語文化コミュニケーション学科1年生について、英語能力の実態や英語学習への意識等を明らかにすることを試みる。

まず、本学共通教育における英語プログラムの歴史の変遷について概観する。次に、本学科1年生の英語能力および英語学習の実態について、前者は2017年4月に行われたプレイスメントテスト⁽¹⁾の結果をもとに、また、後者は、2017年11月に行われたアンケートの結果を踏まえて、それぞれ分析と考察を行う。

1. 本学共通教育における英語プログラム

ここでは本学共通教育における英語科目のカリキュラム変遷をたどる。外国語科目は開学時のカリキュラムでは「一般教育科目等」の区分に属していたが、1995年度改定カリキュラムからは「共通基礎科目」の科目となって現在に至っている。

なお本稿は英語文化コミュニケーション学科の学生の英語に関するものなので、外国語科目中の英語以外の言語について、及び他学科の必修科目・単位数については触れない。

① 1991年開学時のカリキュラム

英語は1年次履修の「英語 IA」「英語 IB」と、2年次履修の「英語 IIA」「英語 IIB」でそれぞれ1週90分で通年、2単位科目であり、計8単位が必修であった。

開学時から英語への意識はあり、「A」は日本人教員担当の「読む」中心の科目、「B」は英語ネイティブ・スピーカー教員担当の「聴く・話す」の科目であったが、1・2年次各週2コマ分というのは当時大学の「一般教育科目等」の英語で通常行われていたカリキュラムのあり方である。ただし「B」は週1コマ分を45分×2回で行っていた。「I」「II」は段階的履修（Iを合格してIIの履修が可能になる）であった。

② 1995 年度改定カリキュラム

外国語科目全体についての検討が行われ、大きな改革が行われた。「英語プログラム」という認識はこのカリキュラムからであるといえる。

英語は「読む」「書く」「聴く」「話す」の4種類、それぞれ「I」「II」「III」の3レベルとなり、「I」を必修とし、「II」「III」は選択科目で段階的履修とした。「読む」「書く」は90分授業週1回の通年科目、「聴く」は前期60分×週3回、「話す」は後期60分×週3回の科目である。これにより英語は週4コマ分となった。その後、科目名が変更されても、必修の外国語を1年次に集中して履修するあり方は、現在まで続いている。

入学者にはプレイスメント・テストを行い、上位者は「I」の履修を免除し「II」から始めるようにした。このような学生を「飛び級」というようになった。各科目にはレベルごとの到達目標が設定され、シラバスに記載された。同一名称の科目は共通の教科書を使用し、共通テストと一定のクラス点の総計で成績評価を行うことにした。このようなプログラム運営において教科書選定や授業の内容、進度、課題等の調整を行うコーディネーターを、当初は非常勤講師が、次いで専任教員が務めることにした。また、「読む」「書く」「聴く」「話す」のスキル科目に加え、トピック別の科目を「英語オプション・コース科目」として開講した。レベル「I」「II」は共通基礎科目だが、レベル「III」と「オプション・コース科目」は共通専門科目とした。このカリキュラムで英語の開講コマ数は非常に多くなり、また「聴く」「話す」は週3回のため非常勤講師による担当は困難であったので、これらの科目の担当者として、英語契約講師の制度を導入した。

③ 2000 年度改定カリキュラム

Semester制が導入され、大半の科目は「英文法1」「英文法2」のような名称になったが、外国語科目は通年制のままだった。この頃から入学者の英語習熟度の幅が大きくなっていることが認識され、2002年度にはレベル「I」の下に「基礎英語」というレベルの科目を導入し、「基礎英語」または「I」を必修とした。

④ 2004 年度改定カリキュラム

「読む」「書く」を統合した Unit A (90分×週2回、2単位)と、「聴く」「話す」を統合した Unit B (60分×週3回、2単位)にして、Semester制を導入、科目名は「基礎英語 Unit A」「英語 I Unit A」～「英語 IV Unit A」、「基礎英語 Unit B」「英語 I Unit B」～「英語 IV Unit B」となった。

必修は Unit A、Unit Bそれぞれ「基礎英語」+「英語 I」、または「英語 I」+「英語 II」の2レベルで計8単位である。プレイスメント・テストでクラス分けを行い、上位者

は「英語 II」のレベルから履修を始めることにした。スキル科目は2年次までとし、その後はオプション・コースの科目（トピック別科目）の履修を勧めるカリキュラムにした。

この年、英語英米文学科は英語文化コミュニケーション学科に名称変更した。

⑤ 2009年度改定カリキュラム

外国語科目の単位あたり時間は、従来1単位30時間であったが、2009年度改定カリキュラムから、講義科目と同様に1単位15時間に変更した。外国語科目で授業外の学修を必要とすることを単位として評価することにしたのである。また、英語文化コミュニケーション学科では「基礎英語」～「英語 III」、または「英語 I」～「英語 IV」の4レベルを必修とした。

2014年度にUnit Bは60分×週3回から、90分×週2回へ変更された。学生の授業時及び授業時外の学習状況等の変化から、担当教員が90分×週2回の方が適切と判断したためである。

⑥ 2016年度改定カリキュラム

「共通基礎科目」に属する1年次履修の英語「読む・書く」の科目名を「KEEP A 1」（前期）、「KEEP A 2」（後期）に、「聴く・話す」の科目名を「KEEP B 1」（前期）、「KEEP B 2」（後期）に変更した。いずれも90分×週2回、4単位の科目である。2年次履修の英語科目は「共通専門科目」に属する科目にして、「読む・書く」重点の科目を「コミュニケーション・スキルズ A 1」（前期）、「コミュニケーション・スキルズ A 2」（後期）、「聴く・話す」重点の科目を「コミュニケーション・スキルズ B 1」（前期）、「コミュニケーション・スキルズ B 2」（後期）とした。いずれも90分×週2回、4単位の科目である。また、「コミュニケーション・スキルズ C 1」（前期）、「コミュニケーション・スキルズ C 2」（後期）という90分週1回2単位の科目を新設した。現在はこの体制で授業が行われている。

2. 英語能力に関する実態調査－プレイスメントテストの結果について

本学は開学時より英語プレイスメント・テストを行ってきた。それは上位者クラスの学生を選ぶためだけに用いられたこともあるが、だいたいクラス分けのために用いられている。開学からしばらくは専任教員作成の問題が使用されたが、その後外部テストが使用されるようになった。現在はELPA（英語運用能力評価協会）の英語プレイスメント・テストが使用されている。

ELPAの英語プレイスメント・テストは、リスニング100点、語彙50点、文法50点、リーディング100点の300点満点（試験時間60分）である。総合スコア及び各分野の

スコアは5～1のレベルで表示される。

レベル表示	総合スコア	語彙	文法	リーディング	リスニング
5	255～300	43以上	43以上	85以上	85以上
4	225～254	38～42	38～42	75～84	75～84
3	165～224	28～37	28～37	55～74	55～74
2	120～164	20～27	20～27	40～54	40～54
1	0～119	20未満	20未満	40未満	40未満

本学英語文化コミュニケーション学科2017年度入学者の成績分布は以下のとおりである。(英語文化コミュニケーション学科に転科予定の学生を含む58名)

レベル表示	総合スコア	語彙	文法	リーディング	リスニング
5	2	6	6	5	3
4	5	2	3	5	3
3	19	23	13	15	27
2	23	18	26	22	20
1	9	9	10	11	5

本学科の学生にはレベル5及び4の学生はそれほど多くない。レベル3の学生は相当数いる。レベル1の学生が英語文化コミュニケーション学科にも一定数はおり、この学生たちには学科の学びのためにも支援が必要であろう。

「一定のレベル以上である」とみなせるレベル3以上の学生数と、「以下である」と考えられるレベル2と1の学生数でくくってみると、ある傾向が見えてくる。

レベル	語彙		文法		リーディング		リスニング	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
5+4+3	31	53.4	22	37.9	25	43.1	33	56.9
2+1	27	46.6	36	62.1	33	56.9	25	43.1

語彙とリスニングではレベル5～3の学生が半数を超えるが、文法とリーディングでは逆にレベル2～1の学生が半数以上である。文法とリーディングが「弱い」傾向が見られる。特に強化が必要な領域であろう。

3. 英語学習に関する実態調査－アンケート

①調査の概要

(1) 調査の対象と方法

今回、調査対象となったのは、2017年度敬和学園大学英語文化コミュニケーション学科入学生全員である。調査には、調査当日の欠席者を除く53名が参加した。⁽²⁾調査は2017年11月8日の「コミュニケーション入門」（英語文化コミュニケーション学科1年生の必修科目）の時間を使い、その日の担当者である川又が説明、実施、回収を行った。そのため回収率は100%である。回答は、該当する記号に○をつけてもらう選択式で行い、最後の2つの設問で記述式を併用した。

(2) 調査項目・内容

アンケートの設問は全部で31問。2017年度英語文化コミュニケーション学科1年生の「英語学習経歴」と「英語学習に対する意識」の2点を明らかにすることを目的として作成された。個々の設問については本稿の末尾にも資料として掲載されているので、そちらを参照されたい。なお、本アンケートの作成にあたっては、川又（1996）、小田他（1997）を参考にした。

②アンケートの結果と分析

以下、アンケートの設問の順番に沿って、結果の報告および分析を行うことにする。最初の間1から間5にかけては、海外渡航経験について聞いている。

問1：海外へ行ったことがありますか。※留学生（りゅうがくせい）の人は、日本以外の国や地域に行ったことがあれば、「ある」に○をつけて下さい。

ある：26名（49%） ない：27名（51%）

ほぼ半数の学生が「経験あり」と答えている。（本調査に参加した留学生2名も、「あり」と答えている。）

問2：海外へ行った目的は何ですか。

観光：9名 勉強（高校の海外研修も含む）：16名 その他：4名

「勉強（高校の海外研修も含む）」と「観光」が多くなっている。「その他」については、

詳細は尋ねていないが、この後の問3、問5の結果と合わせると、幼少期に保護者とともに海外に在住した経験のある学生と考えられる。

問3：海外で生活した通算（つうさん）の期間はどのくらいですか。

1か月以内：16名　3か月以内：2名　6か月以内：2名　1年以内：1名
2年以内：2名　3年以上：3名

「1か月以内」が16名で最も多く、これには問2の「勉強（高校の海外研修も含む）」と「観光」の両方が含まれていると思われる。「3年以上」が3名となっているが、このうち1名は留学生で、残りの2名については、いわゆる日本人学生の「帰国子女」であると考えられる。

問4：海外で一番長く生活していた地域は次のうちどれですか。

英語圏：16名　ドイツ語圏：0名　フランス語圏：0名　中国語圏：2名
朝鮮語圏：2名　イタリア語圏：0名　ロシア語圏：0名　その他：5名

「英語圏」が最も多く16名となっている。「中国語圏」2名のうちの1名、および「その他」5名のうちの1名は留学生である。数は少ないが、日本人学生の中にも英語圏以外の地域に行った者がいることがわかる。「その他」については、今回は具体的な地域を記入することを求めなかったため詳細は不明である。次回は記入してもらうようにしたい。

問5：海外へ行った時の年齢（ねんれい）は、次のどれにあたりますか。（2つ以上選んでもよい）

6歳未満 (under 6 years old)：4名　6歳～12歳 (6 to 12 years old)：6名
13歳～15歳 (13 to 15 years old)：5名　16歳～18歳 (16 to 18 years old)：17名
19歳以上 (19 years old and over)：1名

最も多いのが「16歳～18歳 (16 to 18 years old)」の17名であるが、これはほとんど「勉強（高校の海外研修も含む）」の該当者であると考えられる。それ以外についても、すべての年齢区分にわたって経験者がいることがわかる。

問6から問8では、外国人との接触や本学での外国人教員の授業について尋ねている。

問6：今まで学校以外で英語を使って外国人（がいこくじん）と話をしたりメールやラインをしたりする機会がありましたか。

しばしばあった：13名（24%） たまにあった：21名（40%）

全くなかった：19名（36%）

半数以上の学生が何らかの形で接触を持った経験があることがわかったが、その一方で、4割弱が「全くなかった」と回答している。全体的に見れば、本学入学以前に外国人と直接的な関わりを持つことは現在でもあまり多くはない、と考えられる。

問7：本学では、外国人の先生の英語の授業時間数は

多すぎる：0名（0%） 適切：32名（61%） 少なすぎる：15名（28%）

わからない：6名（11%）

「多すぎる」はおらず、「適切」が6割、「少なすぎる」が約3割となった。1年次の授業では、「KEEP B（聴く・話す）」⁽³⁾が週90分授業×2コマ行われていて、必修となっており、原則として英語の母語話者が担当する授業となっている。この問7の設問と関連して、問30の回答（記述式）を読むと、英語の母語話者による英語だけの授業を本学で初めて経験し、それを評価する学生が多くいることがわかる。「適切」と答えた学生は、そういった学生たちであろう。一方で、「少なすぎる（28%）」と答えた者の割合は、問6の外国人との関わりが「しばしばあった（24%）」とおおむね重なる数字となっている。外国人教員の英語の授業時間数については、平均的な日本人の高校卒業者には適切であると考えられている一方で、海外在住経験等のある英語の学習意欲の高い学生には、不足していると捉えられていると指摘することもできる。このような学生たちのニーズを考えると、今後のカリキュラム改編において、外国人教員の英語の授業時間数を増やすことも検討課題の一つとなろう。ただ、後で取り上げる問10の一日あたりの勉強時間の設問には、5割が30分程度、4割が1時間程度と回答しており（あわせて9割）、単に時間数を増やせばよい、といった類の問題ではないことにも注意したい。

問8：外国人の先生の英語の授業に

十分ついていける：16名（30%） 何とかついていける：28名（53%）

ほとんどついていけない：5名（9%） 未記入等4名（8%）

「十分ついていける」と「何とかついていける」を合わせると8割以上となるが、一方で「ほとんどついていけない」と回答した学生も約1割いる。英語のクラスについては、プレイスメントテストの結果に基づいた習熟度別クラス分けがなされているが、この1割の学生たちについては、通常の授業とは別の、何らかの支援体制が必要であろう。

問9から問12では、英語の勉強方法や勉強時間等について尋ねている。

問9：英語を今、どのように勉強していますか。その勉強方法として、該当（がいとう）するものを選んで下さい。（いくつ選んでもよい。）

大学の授業の予習・復習：40名 英会話学校：1名 個人教授：3名

ラジオ・テレビ講座：5名 通信教育：1名 CD・テープの使用：4名

新聞・雑誌をよく読む：1名 原書（もともと英語で書かれたもの）を読む：5名

パソコン通信やインターネットなど：16名 外国人が身近にいてよく使う：6名

全く勉強していない：5名

その他 5名（映画、音楽、英検対策、TOEIC対策等）

「大学の授業の予習・復習」が40名と最も多くなっている。「パソコン通信やインターネットなど」が16名というのは時代を反映したものであろう。それに対し「ラジオ・テレビ講座」の利用者が5名というのはかなり少ないように思われる。テキストも安価で、さまざまなレベルの番組が用意されており、より積極的な活用が期待される場所である。「原書（もともと英語で書かれたもの）を読む」と回答した学習意欲の高い学生が5名いる一方で、「全く勉強していない」と回答した学生も5名おり、いわゆる「二極化」した状況も見受けられる。

問 10：大学の授業を大学に来て受けること以外で、一日に勉強している時間を選んで下さい。
(授業の予習・復習のための時間を含んでもかまいません。)

30分程度：26名(49%) 1時間程度：21名(39%) 2時間程度：3名(6%)
3時間以上：1名(2%)

「30分程度」が26名で5割となっているが、この中には、問9の「全く勉強していない」と回答した5名も含まれていると考えるべきであろう。「1時間程度」が21名で約4割となっており、両者を合わせると、約9割の学生の勉強時間が1時間程度以下である。これは大学生としてかなり少ないと言わざるを得ず、本学学生の学習習慣が十分には確立されていないことがわかる。

問 11：大学の授業以外で、英字新聞や英文雑誌をどのくらい読みますか。(インターネット利用を含む)

毎日読む：1名(2%) 週に1回は読む：8名(15%) 月に1回は読む：1名(2%)
年に数回読む：12名(23%) 全く読まない：31名(58%)

「全く読まない」が約6割、「年に数回読む」が約2割で、あわせて8割という結果になった。「毎日読む」、「週に1回は読む」という意欲のある学生もいるが、全体的には自主的な学習に取り組んでいる学生の割合は低いと言わざるを得ないだろう。

問 12：授業で使用する教科書以外に、英語で書かれた本を一年に何冊くらい読みますか。

10冊以上：5名(9%) 9～6冊：3名(6%) 5～3冊：7名(13%)
2冊以下：38名(72%)

「10冊以上」という学生が約1割いるが、「2冊以下」が約7割と圧倒的に多い。問11の結果と合わせて、より積極的な英語学習が求められるところである。

問 13 では、海外留学について尋ねている。

問 13：大学在学中に、勉強のために海外へ行きたいと思いますか。(大学の海外研修や個人の短期・長期留学を含む。)

はい：46 名 (87%) いいえ：7 (13%)

約 9 割の学生が「はい」と答えており、留学への志向が強くあることがわかる。問 1 では本学入学前の海外への渡航経験を訪ねているが、約 5 割がありと答えている。入学後の中・長期の留学にも、学生達の期待が大きくあるものと考えられる。

問 14 と問 15 では資格試験について尋ねている。

問 14：英語に関する資格試験（しかくしけん）を受けたことがありますか。

ある：44 名 (83%) ない 9 名 (17%)

※ 「ある」の人は、その資格試験を書いて下さい。(いくつ選んでもよい)

実用英語技能検定 (英検)：40 名 TOEIC：12 名 TOEFL：1 名

国連英検：0 名 商業英語検定：0 名 その他：2 名 (資格試験名：GTEC)

8 割以上の学生が資格試験を受けたことがあると答えており、その内最も多かったのは実用英語技能検定 (英検) の 40 名である。高校では学校単位で、あるいはコース単位等で受験させるところもあることと、本学の資格特待生⁽⁴⁾の要件として英検 2 級 (以上) の取得を求めていること等が挙げられよう。また、TOEIC を受けたと回答した学生が 12 名もいた。理由までは尋ねていないが、英検の場合と同様に、本学の資格特待生の要件として (585 点以上) 挙げられており、留学経験者等、英語学習への意欲の高い層が受けたのかもしれない。

問 15：もし差し支えなければ、その資格試験の結果を教えてください。

(英検 2 級、TOEIC 580 点など)

回答は任意なので全員ではないが、記入をしてくれた学生たちの結果は以下の通りである。

< 実用英語技能検定 (英検) >

準1級：1名 2級：12名 準2級：10名 3級：6名 4級：1名

< TOEIC >

800点台：1名 500点台：3名 400点台：1名 300点以下：1名

英検準1級や TOEIC 800点台など、高い英語力を持って入学してくる学生がいることがわかる。英検2級保持者も12名おり、その多くは資格特待生として入学してきた学生たちであると思われる。

問16から問20では、自身の英語力に対する自己評価をしてもらった。以下、まとめて結果を示す。それぞれの項目で最も多かった回答には下線を引いてある。

以下の問16～問20では、現在の自分の英語力に対するあなた自身の自己診断（じこしんだん）をして下さい。

問16：聞く力

十分ある：6名 (11%) まあまあある：26名 (49%) あまりない：21名 (40%)

問17：話す力

十分ある：4名 (8%) まあまあある：16名 (30%) あまりない：33名 (62%)

問18：読む力

十分ある：2名 (4%) まあまあある：32名 (60%) あまりない：19名 (36%)

問19：書く力

十分ある：2名 (4%) まあまあある：20名 (38%) あまりない：31名 (58%)

問20：文法知識

十分ある：3名 (6%) まあまあある：18名 (34%) あまりない：32名 (60%)

「聞く力」と「読む力」については「まあまあある」という回答が多かった。しかしながらプレースメントテストの結果を見ると、必ずしも自己診断を反映しているとは言い難い面もあるようだ。「話す力」、「書く力」、「文法知識」については、約6割の学生が「あまりない」と回答している。文法知識については、英語を読む場合にも不可欠のものあると考えられるが、自信を持っていない学生が多い。

問 21 では、英語学習の熱意・度合いを 5 段階で自己評価してもらった。

問 21：あなたの現在の英語学習の熱意・度合いを数字で表すとどのくらいになりますか。
数字に○をつけて下さい。

高い		ふつう		低い
5	4	3	2	1
4名 (8%)	17名 (32%)	22名 (41%)	6名 (11%)	4名 (8%)

「4」と「5」で4割、「3」で4割、「2」と「1」で2割という結果になった。3以上で8割ということではあるが、3の割合が最も高かったことはやや意外であった。本学科の学生たちは評価が「控えめ」なのであろうか。

問 22 から問 25 では、大学卒業までに身に着けたいと考えている英語力を選んでもらった。

問 22：聞く力	十分聞き取れる：41名 (77%) おおむね聞き取れる：11名 (21%) 最低限必要な情報を聞き取れる：1名 (2%)
問 23：話す力	自分の考えを十分話すことができる：39名 (73%) 自分の考えをおおむね話すことができる：12名 (23%) 自分の考えを最低限話すことができる：2名 (4%)
問 24：読む力	辞書を引かずに、原書・新聞などが読めて理解できる：34名 (64%) 辞書を引きながら、原書・新聞などが読めて理解できる：15名 (28%) 辞書を引きながら、最低限必要な情報を得ることができる：4名 (8%)
問 25：書く力	自分の考えを十分書くことができる：32名 (60%) 自分の考えをおおむね書くことができる：18名 (34%) 自分の考えを最低限書くことができる：3名 (6%)

どの項目においても、最も高いレベルの英語力を身に着けたいと考えていることがわかる。この目標を達成するためには、問 10 から問 12 の結果からも明らかになった通り、学習習慣の確立が前提となることを学生達に意識させる必要があるだろう。

問 26 では大学卒業後の英語とのかかわりについて尋ねている。

問 26：大学卒業後も英語を役立てたいと思っていますか

はい：47名 (89%) いいえ：0名 まだわからない：6名 (11%)

問 26 で「はい」と答えた人は、次の問 27 にも答えて下さい。

問 27：具体的にどのように役立てたいと考えていますか。

仕事（外資系会社や英語教師など）：39名

語学ボランティアや外国人との交流などのため：8名

その他：0名

卒業後も英語を役立てたいと回答した学生が約9割と多く、やはり将来の職業と結びつけて考えていることがわかる。実際には卒業後の就職先は様々であるが、「語学ボランティアや外国人との交流などのため」と答えた学生も8名おり、英語の学びがその後の人生にもつながっていくことを示唆している。

問 28 と問 29 では、中学校・高校時代の英語学習について尋ねている。

問 28：中学校・高校時代（junior or senior high school days）は英語は好きでしたか。

好き：31名 (59%) 嫌い：5名 (9%) 好きでも嫌いでもなかった：17名 (32%)

「好き」と回答した割合が6割であるのに対し、「好きでも嫌いでもなかった」も約3割いる。「嫌い」とあわせて、どうして本学科に入学したのかを知りたいところである。今回の調査では、その理由についても尋ねてみたい。

問 29：中学校・高校時代に英語をどのように勉強していましたか。その勉強方法として、該当（がいとう）するものを選んで下さい。（いくつ選んでもよい。）

学校の授業の予習・復習：47名 塾・予備校（private cram school）：15名
家庭教師（private tutor）：3名 ラジオ・テレビ講座：4名 通信教育：2名
CD・テープの使用：11名 新聞・雑誌をよく読む：0名
原書（もともと英語で書かれたもの）を読む：5名
パソコン通信やインターネットなど：6名 外国人が身近にいてよく使う：5名
全く勉強していない：2名 その他：（参考書を使って自分で勉強、英検対策）：2名

「学校の授業の予習・復習」が47名と最も多くなっている。「塾・予備校」や「家庭教師」の回答が一定数あるのは、大学受験対策といった意味合いが強いだろう。「原書（もともと英語で書かれたもの）を読む」と回答した学生が5名おり、中学校・高校時代から熱心に英語学習に取り組んだ学生がいることがわかる。一方で、「全く勉強していない」と回答した学生も2名いる。

問 30 と問 31 は記述式の設問となっている。

問 30：これまで大学入学後に受講した中で、あなたが知的刺激を受けた授業と、なぜそのように感じたのかを書いて下さい。

以下、学生の回答を簡潔にまとめる。

<KEEP B について>

- ・英語しか話すことのできない授業は初めて。（複数あり）
- ・ペアワーク、グループワーク等、アクティブ・ワークが進んでいる。
- ・外国人の先生と自由に話せた時はうれしい。
- ・外国人の先生は面白い。（複数あり）

<その他の授業について>

- ・KEEP A と英文法 — 細かいところまで教えてくれてわかりやすい。
- ・文学・歴史・小説 — 物語の新しい見方が知れて面白かった。

- ・検定試験準備コース — 頭を使うから。

KEEP B については、高校までの授業とは違った新鮮な喜びを覚えるようである。

問 31：あなたが大学の学びの中で興味・関心を持っているのはどのようなことですか。また今後、英語文化コミュニケーション学科（もしくは自分の学科）でどのようなことを中心に学びを深めていきたいと考えていますか。自由に書いて下さい。

ここも学生の回答を簡潔にまとめる。

- ・英語を話せるようになりたい。（多数あり）
- ・留学したい。（複数あり）
- ・ボランティア — 英語と母語の日本語を使って役に立ちたい。
- ・読み・書き・将来に生かせる英語
- ・海外で実際に使える英語
- ・英語が苦手なので克服したい。
- ・自分の意見をはっきりとすばやく相手に伝わるようにしたい。
- ・英語以外の言語も学びたい。

「英語を話せるようになりたい。」との記載は多かった。やはり実用英語志向は強いことがわかる。

③アンケートを終えて

今回のアンケートの注目すべき点をまとめると、以下のようなになるだろう。

- (1) 本学入学時までには海外渡航経験のある学生の割合が約5割あり、高校での海外研修等が一般化してきていることがわかる。
- (2) 外国人との接触については、6割が何らかの形であったと答えているが、全くなかった、という学生も4割弱いた。いわゆる「二極化」の状況が見られる。
- (3) 高いレベルの英語力を大学在学中に身に着けたいとかなり多くの学生が考えているが、大学の授業の予習、復習を含む実際の勉強時間は、毎日1時間程度以下が9割という現実が明らかになった。
- (4) 英語を話す力、書く力、文法知識については、あまりない、と回答した学生がそれぞれ6割いた。特に話す力については、大学在学中に身に着けたい、伸ばしたい、と考えている学生の割合が高い。

全体的な結果を踏まえると、英語が得意で毎日の勉強も怠らない学生の割合が1割、大学での勉強や生活に何らかの手を差し伸べる必要がある学生が1割、その両者の間に8割の学生が存在している、というのが本学科の実態であろうか。特に、身に着けたいと考えている（高いレベルの）英語力と、実際の勉強時間の差（ギャップ）はかなり大きく、学習習慣の確立を促す何らかの方策が求められよう。

このような現実を踏まえた上で、カリキュラムや授業、学習支援体制をいかに構築していくか、また、学生の勉強への意識をどのように喚起していくかは、学科に与えられた大きな課題と責任であると考え。ひとりひとりを大切にするリベラル・アーツ教育の理念を踏まえた地道な教育実践が、今まさに求められていると言えよう。

おわりに

本稿では、2017年度入学の敬和学園大学英語文化コミュニケーション学科1年生について、プレイスメントテストやアンケートの結果をもとに、英語能力の実態や英語学習への意識等を明らかにすることを試みた。本学科ではまさに「多様な」学生を受け入れており、そのような実態を踏まえたカリキュラム編成や授業方法の改善、学習支援体制の構築、さらには学生の学習習慣の確立が大きな課題であることが明らかになった。

次年度の研究では、2018年度新入学生とともに、2017年度入学生の一年後の英語力の伸長度および学習に対する意識の変化も継続的に調査していきたい。

なお、本研究については、2017 - 18年度敬和学園大学人文社会科学研究所研究補助（題目：「高大7年制教育に向けてのパイロットスタディ（試験的研究） - 敬和学園高校出身者の英語力の伸長度調査」 研究代表者：川又正之、研究分担者：上野恵美子）の支援を受けている。

本稿は、「1. はじめに」、「4. 英語学習に関する実態調査－アンケート」、「5. おわりに」を川又が、「2. 本学共通教育における英語プログラム」と「3. 英語能力に関する実態調査－プレイスメントテストの結果について」を上野が執筆した。それぞれの担当箇所については相互に確認、検討し、必要な修正を行っている。

註

- (1) 現在は ELPA (英語運用能力評価協会) の英語プレイスメント・テストが使用されている。詳しくは第3節本文を参照。
- (2) 2018年度に英語文化コミュニケーション学科への転科を希望している4名の国際文化学科の学生についても本調査の対象に含めている。
- (3) 「KEEP」は Keiwa Extensive English Program の略で、「KEEP A」が「読む・書く」、「KEEP B」が「聴く・話す」を中心とした授業である。いずれも週90分授業×2コマで、英語文化コミュニケーション学科の学生の必修である。
- (4) 実用英語技能検定2級以上の合格者または TOEIC 550点以上達成者は授業料(69万円)を免除するという制度が適用された学生。

【参考文献】

- 川又正之・市川真矢・小田寛人 1996. 「常葉学園短期大学英語英文科学生の英語学習・英語能力に関する実態調査(1)」『常葉学園短期大学紀要』第27号、pp. 101-119
- 小田寛人・川又正之・市川真矢 1997. 「常葉学園短期大学英語英文科学生の英語学習・英語能力に関する実態調査(2)」『常葉学園短期大学紀要』第28号、pp. 135-148

<資料>

英語学習についてのアンケート

2017/11/08

このアンケートは、敬和学園大学のカリキュラムや授業、留学制度等、英語教育の改善のために行われるものです。無記名ですが、正確なデータを収集するために、誠実に回答して下さい。みなさんの協力をお願いします。回答内容が成績に影響することはありません。

<この部分、忘れずに必ず記入して下さい。※該当する（ ）に○を記入。>

1. 学科：() 英語文化 () 国際文化 () 共生社会
2. 学年：() 1年生 () 2年生 () 3年生 () 4年生
3. 出身高校：() 公立 () 私立 () 日本の高校以外を卒業
(転校をした場合は、最終的に卒業した高校)
4. 出身高校が私立の人は以下の部分も記入して下さい。
() 敬和学園高校出身 () 敬和学園高校以外の出身

問1：海外へ行ったことがありますか。 () ある () ない

※留学生(りゅうがくせい)の人は、日本以外の国や地域に行ったことがあれば、「ある」に○をつけて下さい。

問1で「ある」と答えた人は、以下の問2から問5にも答えて下さい。

問2：海外へ行った目的は何ですか。

() 観光 () 勉強(高校の海外研修も含む) () その他

※「その他」の人は、その目的を書いて下さい。

()

問3：海外で生活した通算(つうさん)の期間はどのくらいですか。

() 1か月以内 () 3か月以内 () 6か月以内 () 1年以内
() 2年以内 () 3年以上

問4：海外で一番長く生活していた地域は次のうちどれですか。

() 英語圏 () ドイツ語圏 () フランス語圏 () 中国語圏
() 朝鮮語圏 () イタリア語圏 () ロシア語圏 () その他

問5：海外へ行った時の年齢(ねんれい)は、次のどれにあたりますか。(2つ以上選んでもよい)

() 6歳未満 (under 6 years old) () 6歳～12歳 (6 to 12 years old)
() 13歳～15歳 (13 to 15 years old) () 16歳～18歳 (16 to 18 years old)
() 19歳以上 (19 years old and over)

問6：今まで学校以外で英語を使って外国人（がいこくじん）と話をしたりメールやラインをしたりする機会がありましたか。

しばしばあった たまにあった 全くなかった

問7：本学では、外国人の先生の英語の授業時間数は

多すぎる 適切 少なすぎる わからない

問8：外国人の先生の英語の授業に

十分ついていける 何とかついていける ほとんどついていけない

問9：英語を今、どのように勉強していますか。その勉強方法として、該当（がいとう）するものを選んで下さい。（いくつ選んでもよい。）

大学の授業の予習・復習 英会話学校 個人教授
 ラジオ・テレビ講座 通信教育 CD・テープの使用
 新聞・雑誌をよく読む 原書（もともと英語で書かれたもの）を読む
 パソコン通信やインターネットなど 外国人が身近にいてよく使う
 全く勉強していない
 その他（具体的に：）

問10：大学の授業を大学に来て受けること以外で、一日に勉強している時間を選んで下さい。（授業の予習・復習のための時間を含んでもかまいません。）

30分程度 1時間程度 2時間程度 3時間以上

問11：大学の授業以外で、英字新聞や英文雑誌をどのくらい読みますか。（インターネット利用を含む）

毎日読む 週に1回は読む 月に1回は読む
 年に数回読む 全く読まない

問12：授業で使用する教科書以外に、英語で書かれた本を一年に何冊くらい読みますか。

10冊以上 9～6冊 5～3冊 2冊以下

問13：大学在学中に、勉強のために海外へ行きたいと思いませんか。（大学の海外研修や個人の短期・長期留学を含む。）

はい いいえ

問14：英語に関する資格試験（しかくしけん）を受けたことがありますか。

ある ない

※「ある」の人は、その資格試験を書いて下さい。(いくつ選んでもよい)

実用英語技能検定(英検) TOEIC TOEFL 国連英検
 商業英語検定 その他(資格試験名: _____)

問15: もし差し支えなければ、その資格試験の結果を教えてください。()
(英検2級、TOEIC 580点など)

以下の問16～問20では、現在の自分の英語力に対するあなた自身の自己診断(じこしんだん)をして下さい。

問16: 聞く力 十分ある まあまあある あまりない

問17: 話す力 十分ある まあまあある あまりない

問18: 読む力 十分ある まあまあある あまりない

問19: 書く力 十分ある まあまあある あまりない

問20: 文法知識 十分ある まあまあある あまりない

問21: あなたの現在の英語学習の熱意・度合いを数字で表すとどのくらいになりますか。数字に○をつけて下さい。

高い		ふつう		低い
5	4	3	2	1

以下の問22～問25では、大学卒業までに身につけたいと考えている英語力を選んで下さい。

問22: 聞く力 十分聞き取れる おおむね聞き取れる
 最低限必要な情報を聞き取れる

問23: 話す力 自分の考えを十分話すことができる
 自分の考えをおおむね話すことができる
 自分の考えを最低限話すことができる

問24: 読む力 辞書を引かずに、原書・新聞などが読めて理解できる
 辞書を引きながら、原書・新聞などが読めて理解できる
 辞書を引きながら、最低限必要な情報を得ることができる

- 問 25 : 書く力 () 自分の考えを十分書くことができる
() 自分の考えをおおむね書くことができる
() 自分の考えを最低限書くことができる

- 問 26 : 大学卒業後も英語を役立てたいと思っていますか
() はい () いいえ () まだわからない
問 26 で「はい」と答えた人は、次の問 27 にも答えて下さい。

- 問 27 : 具体的にどのように役立てたいと考えていますか。
() 仕事 (外資系会社や英語教師など)
() 語学ボランティアや外国人との交流などのため
() その他 (_____)

- 問 28 : 中学校・高校時代 (junior or senior high school days) は英語は好きでしたか。
() 好き () 嫌い () 好きでも嫌いでもなかった

- 問 29 : 中学校・高校時代に英語をどのように勉強していましたか。その勉強方法として、該当 (がいとう) するものを選んで下さい。(いくつ選んでもよい。)
() 学校の授業の予習・復習 () 塾・予備校 (private cram school)
() 家庭教師 (private tutor) () ラジオ・テレビ講座 () 通信教育
() CD・テープの使用 () 新聞・雑誌をよく読む
() 原書 (もともと英語で書かれたもの) を読む
() パソコン通信やインターネットなど () 外国人が身近にいてよく使う
() 全く勉強していない () その他 (具体的に: _____)

- 問 30 : これまで大学入学後に受講した中で、あなたが知的刺激を受けた授業と、なぜそのように感じたのかを書いて下さい。

問31：あなたが大学の学びの中で興味・関心を持っているのはどのようなことですか。また今後、英語文化コミュニケーション学科（もしくは自分の学科）でどのようなことを中心に学びを深めていきたいと考えていますか。自由に書いて下さい。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。